

吉里吉里（きりきり）海岸清掃プロジェクトとは？

2011年（平成23年）3月11日14時46分18秒、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生し、大槌町も強い揺れに襲われました。加えて、この地震が引き起こした大津波とそれによって発生した火災により、沿岸部のみならず町内の中心部も壊滅的な被害を受けました

吉里吉里（きりきり）海岸清掃プロジェクトはその大槌町内にある吉里吉里海岸で行われます。

「キラキラ」とはアイヌ語で「白い砂浜」を意味しており震災以前はシーズン中沢山の観光客で賑わっていました。又、昔から吉里吉里海岸は美しい砂浜でしかみられない「鳴砂（なりすな、なきすな）」で有名で、砂の上を歩くと「キラキラ」と鳴ることから吉里吉里の名前が付いたとも言われています。

震災後、吉里吉里海岸には自衛隊や大槌町漁業組合、大槌町役場が大きな瓦礫や流木の撤去等を行いました但未だ全てのゴミは拾い切れていません。又、表面上はきれいに見える海岸も少し掘り起こせば硝子の破片や大きな石が出てくるような状況にあります。

大槌町社会福祉協議会ボランティアセンターは、4月の下旬より（特活）グッドネーバーズ・ジャパンと協力して吉里吉里海岸清掃プロジェクトを開始します。主な活動内容は海岸のゴミ拾いですが、砂浜をきれいにする作業では砂を篩にかける等の作業も行い、海岸が一日も早く震災前の様な白いきれいな砂浜に蘇り、安心して砂浜が歩けるようになるために清掃活動を行います。

